

令和元年度第1回射水市地域公共交通活性化協議会 会議録

- 1 開催日時 令和元年8月1日（木）午後2時～午後3時20分
- 2 開催場所 射水市役所（本庁舎）2階会議室201・202
- 3 出席者 岩田会長、川腰副会長、林委員、高松委員、釣谷委員、宮腰委員、作道委員、上野委員、白川委員、水上委員、上田委員、山崎委員、澤井委員（代理石黒氏）、島倉委員、坂井委員、中村委員、豆川委員（代理高橋氏）、山下委員、谷内委員、高坂委員、佐々木委員、長谷川委員、清水委員、石橋委員、米本委員、武部委員、荒谷委員、島崎委員
事務局 原市民生活部次長、星野生活安全課長、久々江課長補佐、北川主任、宮林主任

4 会議概要

(1) 開会

岩田会長挨拶

(2) 今年度のスケジュールについて

（事務局から説明：資料1）

(3) 協議

「射水市地域公共交通網形成計画（検討資料）」について

（事務局から説明：資料2・参考資料）

（長谷川委員紹介：別紙資料「地域公共交通 赤字=廃止でいいの？」）

（委員）

第6章に具体的施策を挙げているが、内容としては検討するという方向性にとどめているものが多い印象を受ける。今後、より具体的に事業を進めていくには、いつ、誰が、何をするのかというより具体的な工程表とともに記載する必要がある。このようなものも踏まえた上で、議論していくのが有意義かと思う。

また、具体的な施策の中に、「中央環状路線の検討」や、その他にも

コミュニティバス路線の再編の検討ととれる施策があるが、これは大きな課題となる。この検討を進めるためにも、議論の題材を計画書内に盛り込んでいただきたい。射水市のコミュニティバスは、路線網が密であるという強みもあるが、一方で非効率的な部分もあり、このようなことを踏まえた議論が必要となるであろう。

(事務局)

具体的施策については、現段階での市としての案を示したものである。次回会議時には、各施策を実現性に応じて取捨選択し、さらに具体的な施策内容に踏み込んだ資料としたい。

中央環状路線の検討やコミュニティバスの再編についてはもう少し考えていきたい。

(委員)

次回会議時にいきなり再編案を提示されても委員の皆様も議論がしにくいと思われる。事前に事業者などの関係者に説明、ご議論いただいた上で提示いただきたい。

(委員)

今回多くの施策が出ているが、次回会議までの3か月で取捨選択していくということではどうか。

(事務局)

各施策を取捨選択していくに当たっての実施可能性の基準が現時点での資料ではわかりにくくなっている。次回は個別の事業について、その効果などもお示しするのがよいと考えている。事業者の方々との意見交換なども踏まえてブラッシュアップしたい。

(委員)

残り3か月の中で全ての施策の実施可能性を精査しきるのは厳しいと思われる。工程などについて具体的に記載することは基本だが、一方で、現時点で決められないものについては、計画の適宜見直しにより今後反映していくものがあるのもよいと思う。今回資料として配布いただいた地域カルテや路線カルテなどをみると、すでに相当現状を綿密に把握されている。今年度策定する計画にこのような詳細な分析が全て反映できなくとも、計画の見直しも見据えて工程表の中で具体化する時期を記載してもよいのではないか。

資料の15ページに射水市内の公共交通ネットワーク図を示しているが、本来は通常のタクシーも公共交通として位置づけられるべきものであるので、図にも何らかの形で記載すべきと考える。

45ページの数値目標を見ると、あいの風とやま鉄道や万葉線の項目もあるので、コミュニティバスにとどまらない計画にしたいとの意図は見える。事業者や関係者と連携して計画書の内容をつめていただきたい。

(事務局)

タクシーについては公共交通ネットワーク図に記載したい。

計画書の内容について、事業者と相談して内容をつめていき、また工程についても記載させていただきたい。

(委員)

計画書の4章までや、路線別、地域別カルテで、現状を綿密に把握されている。具体的な施策を記載する際には、これらの現状把握と施策とのリンクがわかるように工夫してほしい。

(委員)

まちづくりや観光計画と、今回の計画とのリンクがわかるように冒頭部分にでも記載した方がよいのではないか。まちづくりがあった上での公共交通だと思うので。将来イメージについても同様である。

(事務局)

都市計画マスタープランの内容などを工夫して記載したい。

(委員)

計画書にタクシーに関する施策を盛り込むのであれば、まずは事業者のポテンシャルをまずは把握してほしい。ドライバーの減少や高齢化が進んでいる。また、効率化を図るという視点も重要となってくる。例えばタクシー配車を市内各社共通にしたり、貨客混載を検討するなど。タクシーだけでなく、バスについても同様である。

バス路線を再編するのであれば事業者への影響は大きい。各事業者の売上の中に占めるバス売上の比率も把握してほしい。こういったところを踏まえて、議論に参加させていただきたい。

(事務局)

事業者の方々とのご議論を踏まえ、実現性の高い計画となるよう進めていきたい。

(委員)

46ページに、地域公共交通の将来イメージ図が記載されているが、これをみると、昔の他の計画にみられた東西南北の基本軸のうち、あいの風とやま鉄道線より南部の軸が消えているように見えるが、どのような経緯、意図があるのか。南部は住宅団地や企業団地がかなりあ

り、人の動きもあると思うが。

(事務局)

将来イメージについては、都市計画マスタープランを踏まえてはいるが、都市計画マスタープランのイメージ図の軸は自動車交通等も含めた全体の流れとしてのイメージである。一方、今回示したイメージは公共交通による人の流れのイメージであるという点をご理解いただきたい。

国道472号が射水市の背骨であるという方向性は変わっていない。一方で、今回の計画は各拠点を公共交通で結ぶものをイメージしている中で、南に関しては拠点がまだはっきりしていない状況もある。ただ、南北一体のまちづくりの方向性が変わったわけではない。

(委員)

将来イメージの経緯の丁寧な説明が必要と思う。

(委員)

施策の中で「住民主体の地域交通」との記載があるが、これがどのようなものかわかりにくいので、具体例があれば示してほしい。

(事務局)

住民主体の地域交通として、最近では富山県内でも小さなバスを運行した例もあり、計画書内でもこれらを例示し、どのようなものか分かりやすいようにしたい。

(委員)

現在、都市計画マスタープランの議論・説明を受けているが、その中では具体化されておらず今回の網形成計画では記載されているもので「待合環境の充実」の記載がある。具体的にこれはどこのことか。

また、「小杉駅の橋上化に関する調査研究」とあるが、これは意見というよりは住民から持ち上がってきた要望であるとの認識である。都市計画マスタープランからのフィードバックもあると思うので、両計画を重ね合わせて検討してほしい。

(事務局)

「待合環境の充実」で具体的に想定しているのは、小杉駅の南口の屋根を何らかの形で改善することを考えている。もう一つは今後建設予定の新湊複合交流施設の待合環境の整備を想定している。

小杉駅の橋上化については、計画期間は5年であるので、調査研究という記載としたい。

(委員)

地域振興連合会としては、小矢部の橋上駅のようなものがないと思っているので、参考にしてほしい。小杉駅の橋上化は縣市だけの話ではなく、国の支援も必要となってくるので、5年ではさすがに難しいと思う。

(事務局)

小杉駅の橋上化は時間がかかると考えているので、本計画では実施可能性も含めた調査研究として記載したい。

待合環境の向上については、乗り降りが多くハブ拠点である今回示した場所を優先的に充実させていきたい。

(4) 閉会